

第24回鈴鹿市文芸賞の受賞作品が決まりました

◆一般の部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	小説	福田かよ子	白い月・五代アイの生涯
	エッセイ	小川はつこ	ヤマトダマシイ
	アフォリズム	中山美保	式典のテープカットには、本当に汗をかいてきた人たちが、いつもいない。
	詩	大谷仁志	僕は知っている
	短歌	栗山恵美	知覧
	俳句	大野信子	浦日和
	川柳	塚山繁	冬支度
優秀賞	小説	多野中心	虎太郎
	エッセイ	折戸典子	嫁いで・宣長の墓
	アフォリズム	奥田かなえ	呼んですぐ来るのが犬とオジサン。呼ばなくてもやってくるのは猫とオバサン。
	詩	桐山勸	猫よ
	短歌	小林徳子	花とくらし
	俳句	仲見たかし	夜の梅
	川柳	芦田敬子	ため息

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	評論	北川英昭	幕末期の伊勢国石薬師柳園塾
	小説	橋倉久美子	二〇一四年五月二十八日の広島
	エッセイ	浦田純奈	風花
	エッセイ	麦畑羊一	池上本門寺
	アフォリズム	樋口りゑ	饒舌は女を裸にし、寡黙は女を埴輪にする。
	詩	原君子	生と死の門
	短歌	加藤道子	蜘蛛の子
	短歌	林かほる	災害
	俳句	山中みきを	潔く
	川柳	竹口みか子	ときめき
	川柳	松長一步	日常の中の不思議
	川柳	樋口りゑ	恋

◆ジュニアの部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	作文・童話	由本真菜	さくらんぼ
	詩	該当者なし	
	短歌	岡本結	風がふき秋になったと人間に伝えてくれるどんぐりの実が
	俳句・川柳	辻本愛叶	赤と白お屋は仲間運動会
優秀賞	作文・童話	榎本ゆり	おにぎり総選挙
	詩	河合涼歌	かくし味
	短歌	瀧本愛莉	よる8時まっくらなにわ音立ててぱっときらめく花火とわたし
	俳句・川柳	國分麻衣	入学の妹の顔花のよう
奨励賞	作文・童話	西飯健太	やって来たドラゴンくん
	詩	郡山忠恵	わたしとテレビ
	短歌	岡本真弥	あかもみぢちるとくるくるまわるのがダンスみたいでおどりたくなる
	短歌	戸本花奈	どんぐりがころころまわるんだ どんぐりさんのめがまわるんだ
	短歌	市川大翔	にんじゃたちくるっとかいてんきえたんだ ぼくもやったよどんでんがえし
	短歌	市川結菜	夏休み宿題いっぱいやになる にんじゃになって消えたいな
	短歌	玉置珠菜	家族はねわらっているよううれしいな そのとき自分ひかっているんだ
	短歌	北岡茉里奈	公園で花火をしたよキラキラと 線香花火会話している
	短歌	北山仁大	ダンスはね見られたくないはずかしい ときょうそうはみてほしいんだ
	短歌	成山心優	石けずりまが玉作りつめけずり 昔の人の気持ちごとく
短歌	栗山千賀子	ザーザーと波の音がねきこえるよ いろんな音で歌っているよ	

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	短歌	川島翔輝	緑から赤に変わるよふしぎだな ま法みたいなもみじすごいな
	短歌	水谷颯斗	きんもくせい先生がねえすきなんだ はじめてしていいにおいだよ
	短歌	末松みなみ	トンボたち家族みんなで旅にでる いつまでいくのつぎの秋まで
	短歌	田中杏果	なつかしい思い出色々夏休み またもどりたいいろんな自分へ
	短歌	明石宗馬	コンクール四の二位までのぼりつめ 最後にのこる宿題の山
	短歌	市川真帆	ザアザアと波音たててせめてくる おしよせる波私はにげる
	短歌	川村優衣	涙まう桜ふぶきに思いのせ 六年間よありがとう
	俳句・川柳	松永怜奈	ありがとうこのひとことがてれくさい
	俳句・川柳	野田波輝	ダイエットだんだん月がやせていく
	俳句・川柳	坂崎遥菜	さわやかな秋風ほほをすりぬけた
	俳句・川柳	内山栞里	ふわふわなおちばのうえで眠りたい
	俳句・川柳	山田康生	なつ休みアイスもぼくもとけそうだ
	俳句・川柳	加藤琥哲	かぶと虫一びきとれてうれしいな
	俳句・川柳	坂元遥香	こうようがきれいにうつるかがみいけ
	俳句・川柳	中西優衣	おいしいな新しい米ぴかぴかだ
	俳句・川柳	須藤環	ほこりおち風すきとおる雨上がり
	俳句・川柳	佐藤大馳	くませみをつかまえてすぐにかしたよ
	俳句・川柳	服部凧沙	川遊びギラギラ光る太陽と
	俳句・川柳	中嶋桃伽	朝顔は朝の光に敏感だ